



さとのかぜ

NO.166

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

3月号 2009年 3月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

ひな祭りの段飾り、始まりは元禄時代

3月3日はひな祭りです。ひな祭りは中国渡来の上巳の祓（じょうしのはらい）に由来し、かつては紙の人形（ひとがた）で身体をなで、身に付いた災厄を人形に移して水に流すというものでした。有名な鳥取地方の“流し雛（ひな）”は、その名残りを残す行事です。江戸時代になると人形は“厄払い”から、女兒の誕生を祝い、成長と良縁を願う“ひな飾り”となります。元禄時代に入ると内裏雛に官女、五人ばやし、隨身（ずいしん）、仕丁（しちょう）が加わった豪華な段飾りが登場します。住宅事情から段飾りのひな人形を飾る家は少なくなり、内裏雛だけとか、ケースに入った木目込み人形等々、コンパクトなひな人形を飾る家が多くなっています。それとともに、3月3日を過ぎてひな人形を飾ったまましていると、娘の婚期が遅れると忌まれたものが、一年中飾っているという家も増えているようです。



内裏雛は関東と関西で男雛と女雛の並びが変わる。古来日本では向かって右が上席だったが、昭和天皇が即位の際、西欧に習って左に立たれたことから関東ではそれに従って男雛を飾るようになったといわれる。写真は大曾根家（いすみ市）の七段飾りのひな飾り。



ところで、『江戸名所図会』に当時白酒で有名だった豊島屋の記述が載っています。「鎌倉町、豊島屋酒店白酒を商ふ図。例年二月の末、豊島屋の酒店に於て雛祭りの白酒を商ふ、是を求めんとして遠近の輩黎明に市をなして賑へり」とあり、売り出し日には、人に圧されて気を失う者やけが人が出たため、気付け薬を用意した医師が控えていたとか。ちなみにこの豊島屋は、江戸時代の神田鎌倉河岸から千代田区猿樂町（東京）に移り、今も健在です。ちなみに3月3日は“耳の日”です。3（み）3（み）の語呂合わせですが、電話の発明者、ベルの誕生日が3月3日というのもおもしろい偶然の一致ですね。

『江戸名所図会』に描かれた豊島屋の賑わい

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○『干潟の鳥たち』1日

○『つるでかごづくり』22日

《干潟の鳥たち》

参加者は男性1名、女性4名の計5名。センター集合後、第一の観察場所の椎木堰へ車で移動し、予定時間の午前9時に堰に到着。双眼鏡やフィールドスコープで堰に集う水鳥の観察を始めました。堰にはマガモやコガモなど、お馴染みのカモをはじめ、オナガガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ハシビロガモ等々、珍しいカモを観察することができました。布留川講師の指導のもと、フィールドスコープで一種類ずつカモを確認した参加者は「カモにこんなにたくさんの種類があるとは知らなかった」と感激しきりでした。

フィールドスコープに釘付け



約1時間、椎木堰での観察を終えた参加者は再び車

で移動。第二の観察場所夷隅川河口へ向いました。夷隅川河口ではまず海沿いでイソシギやイソヒヨドリ、ウミネコなどを確認。夷隅川の改修で生まれた潟湖では、椎木堰で観察されたヒドリガモやカルガモに加え、ヨシガモ、ダイサギ、アオサギなどが観察されました。また、カモたちに比べてひときわ大きなウミウ、カワウの群れがテトラポットに並んで羽を休める姿が見られました。ここで講師からウミウとカワウの見分け方を聞き、皆フィールドスコープに釘づけに。識別ポイントは、頬（ほほ）の白色部分。カワウはこの白色部分が目とほぼ同じ高さで後方に延びているが、ウミウは目より高く後方に延びている。この特徴を覚えておけば、観察は容易です。

センターピックアップ 3月

むしろおりき
＜筵織機が結んだ出会い＞



センターには色々な古農機具が展示されています。その中に「菅根式筵織機（むしろおりき）」があります。かつて夷隅郡市の農家には必ずあった、といってもよい農機具ですから、ご記憶の方も多いのではないでしょうか。

筵織機は、「竹かご教室」の講師・河野衛氏から提供されたものです。この筵織機を長年探し続けていたのは菅根成之さん。菅根式筵織機は、祖父の丑太郎さんが開発し、昭和の初期から昭和30年代半ばまで製作販売していたものでした。

昨年、センターでこの筵織機を見つけた菅根さんは、ぜひ提供者に会いたいと願っていたとか。そして2月22日、久々に会った兄の宗平さんを伴ってセンターを訪れた菅根さんは、偶然「つるかごづくり」のボランティアに来ていた河野さんと出会い、そこで、つるかごづくりの講師・尾形信保さんが今も菅根式筵織機を使っていること。さらに安藤亮太さんが、菅根式筵織機を復元したことを知り、大感激していました。

皆さんも懐かしい古農機具や古民具を見にいらっしゃいませんか。忘れていた思い出がよみがえるとともに、新しい発見や出会いがあるかもしれませんよ。

河口から近くの水田に移動し、タゲリを探していると、偶然にも畦で何やら摂餌中のノスリを見つけました。参加者を気にしながらも餌を食べ続けたノスリ。飛び去った後には羽だけが散らばっているだけでした。よほどお腹が空いていたのでしょうか。ここで観察会は終了。国道へ移動中に、お目当てのタゲリを発見。しばらく観察したあと自由解散となりました。



夷隅川河口堰で、ウミウとカワウの違いを観察する参加者たち

《つるでかごづくり》

人気行事の一つ「つるかごづくり」は今回もキャンセル待ちが出ました。しかし当日キャンセルが出て、参加者は18名（男5人、女13人）でした。資料を受け取った参加者はセンター前広場でつるの種類や採集についての注意事項を聞いた後、採集場所に移動。思い思いにつるを採集。予定時間より早めに採集を終え、再びセンター前広場へ戻り、思い思いの場所にむしろを広げ、尾形講師の指導のもと、かごづくりに取り組みました。

まずたて芯とする太めのつるを4本、同じく芯とするつるを1本（先のつるの半分の長さ）、そして編み材とする少し細目で長いつるを用意。芯用の長いつる2本を中央で十文字に重ね合わせ、短い芯用のつるを1本を間に挟みます。次に底をつくるための根締めとして、編み材のつるで2本ごとに上、下と交互

編む前に、まずは、センター近くでつるを採集



広場にむしろを敷いて作業中の参加者



にしっかりと3巻きします。その後、芯のつるを1本ずつ広げ、上、下と互い違いに編み進めます。途中で編み材が足りなくなったら、芯の上で1～1.5cmほど交差させてつるを足し、編み進めます。芯を曲げながらかご状に立ち上げ、好みの高さまで編み上げたところで、編みは終了。次は縁づくです。たて芯を隣りのたて芯の穴に差し込み、余分なつるはカット。好みで柄を付けて出来上がり。参加者全員、予定時間内に1つから2つのかごを編み上げて笑顔で終了！（大東 悠子）

にしっかりと3巻きします。その後、芯のつるを1本ずつ広げ、上、下と互い違いに編み進めます。途中で編み材が足りなくなったら、芯の上で1～1.5cmほど交差させてつるを足し、編み進めます。芯を曲げながらかご状に立ち上げ、好みの高さまで編み上げたところで、編みは終了。次は縁づくです。たて芯を隣りのたて芯の穴に差し込み、余分なつるはカット。好みで柄を付けて出来上がり。参加者全員、予定時間内に1つから2つのかごを編み上げて笑顔で終了！（大東 悠子）



編み上げたつるかごを手に全員で記念撮影。なかには「帰って早速もう一つ作る」という人も

◎ 今、いすみでは???

<さとの春が来ました!>

2月4日の立春以降、センター付近ではいろいろな“春”が見つかり始めました!

① トウキョウ サンショウウオの卵

湿生園の水路で見つけました(2月21日)。産みつけられて数日経っているようで、だいぶ成長した赤ちゃんが観察できました。



拡大

② ニホンアカガエルの卵 昆虫広場の水路で2つ見 つけました(2月21日)。



③ ジャガイモの植え付け センターの畑に、春真っ先 に植えるのはジャガイ モ!(2月22日)



いすみの気象情報(2月)

平均気温: 6.2 °C 最高気温: 25 °C 最低気温: -2 °C 総雨量: 77.5 mm

クリオオアブラムシ (アブラムシ科)

今月の

見い~つけた! No.11



黒いシミは
全部タマゴ!

大きいかたまり
が親(ミイ
ラ?)。
小さいツブツブ
がタマゴ!



昆虫広場(雑木林)のクリの木の根元に黒い粒がビッシリついているのを見つけました。クリにつくアブラムシで、黒くテカった1mmほどの卵をたくさん産み、冬を越します。5mmほどの親と思わしきアブラムシも所々に混じっているのですが、全く動きません。よく見ると、体に穴が空いているものもいて、中が空っぽ…。調べてみると、アブラバチという仲間が寄生し、中を食べつくすと外へ出て行ってしまいます(ギョっ!)。どおりで動かないわけですね。4月になると卵がかえって活動を始めます。アブラムシはおしりから甘い排泄物を出すので、それを求めてアリが集まります。このアブラムシを介して、ハチ、アリ、クリがつながっている…。こんな身近で小さな生き物からも、自然の奥深さ、おもしろさを感じられるのですね。(塚 勇人)

和泉-日在浦だより(最終回) [2009年3月1日]



[冬の風物詩]

太東岬-大原八幡岬間5kmの海岸は沖合い20kmまで水深20mの遠浅で、冬の大型低気圧通過時には波高6-7mもの高波が岸边に押し寄せてきます。大時化の早朝、ハマシギ、ミュビシギ、シロチドリ等が和泉-日在浦の岸边近くで餌を食み、飛翔する姿が見られました。2月末現在日在潟では朝晩コガモの「ピリッ・ピリッ」と啼く鈴の音が聴かれ、日中はカルガモ、アオサギ等の姿があります。生垣沿いの市道ではウグイスの美声に聞きほ

れ、太った野生のウサギが元気に跳ぶ姿に驚かされます。

[千葉県主催のNPO活動写真展2009]

千葉県主催のNPO活動写真展が、千葉県庁や各地域で1月19日～2月27日まで開催されました。アカウミガメ繁殖保護活動では、前年に続き「カレットいすみ」が紹介されました。『いすみ市では「ウミガメ保護条例」を制定し、市と市民が一体となりアカウミガメの繁殖保護活動を進め、海岸の漂着ゴミの片付けとパトロールに励んでいます。2008年7月13日早晩、私共が産卵中の親ガメを発見し、市の宿直に通報し皆で観察しました。写真は産卵に立ち会う市職員とカレットいすみ森谷香取と会員です。』

[地域住民による自然環境の保全と野生生物の保護を]

和泉-日在浦の海岸と並行する25ヘクタールの日在潟の入江は南房総国立公園で且 鳥獣保護区であり、海岸は絶滅危惧種ア



野生のウサギ跳ぶ (2/8)



千葉県NPO活動写真展2009から
市職員と森谷たちのウミガメ保護活動

カウミガメの産卵北限域にして、「東アジア～オーストラリア・フライウェイ」と呼ぶオーストラリアからアラスカまで12,000kmに及ぶミズナギドリの飛翔ルートでもあります。この貴重な野生生物の宝庫をこのままの姿で私共の子孫に遺すため、率先して地域住民が努力すべきと考え活動中です。

[最終回の挨拶]

「和泉-日在浦だより」は今回が最終回となります。この地の地勢や気候の特徴、動植物の観察、地下資源・水産資源や気候変動等につき調査、発表すると共に、「さとのかぜ」への毎月の執筆は2002年4月から7年に及びました。長い間ご愛読有難うございました。皆様と自然保護を通じてまたお会いしましょう！ [森谷 淵(もりや ふかし)]

3月の行事案内

- ★『炭焼きに挑戦しよう』定員 20 名
日 時 7日(土)9:00～未定
8日(日)13:～15:00



- 参加対象 中学生以上（中学生は保護者同伴）
場 所 ネイチャーセンター
持ち物 軍手、うちわ、懐中電灯、空のペットボトル（500ml程度）、お弁当2食分（7日の昼・夕）

- ★『春の星座を見てみよう』定員 20 名
日 時 21日(土)18:00～20:30
雨天順延 3/22
場 所 ネイチャーセンター
持ち物 懐中電灯、寒くない服装



<4月の行事は未定>

5月の行事予定

指定管理者変更のため、21年度の年間行事予定は、まだ決まっておりません。決まり次第発表いたしますので、いましばらくお待ちください。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

いすみ楊枝

—千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

- 日 時 3月15日(9:30～16:00)
場 所 ネイチャーセンター
講 師 高木 守人氏
参加料 無料
内 容 楊枝・花入れ・茶杓作り

* 次回は4月19日(日)開催予定です。

*

なお、詳細等につきましては☎0470-86-3078 池田和彌氏までお問合せください。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

* eメール可(メールアドレス:info@isumi-sato.com(@は全角です))

* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

*「さとのかせ」の定期購読を希望される方へ。21年度の購読申し込みは、もうしばらくお待ちください。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～翌年1月3日

開館時間:9:00～16:30、入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。